

自治体の課題、現状

少子化の影響等により部員数が減少し、学校単位での活動が困難になってきている。そのため、近隣の学校や地域で協力しながら生徒の文化芸術活動の機会を確保する体制の整備が必要である。

令和５年３月に「とちぎ部活動移行プラン」を策定し、プランの活動目標として、令和７年度までに、全ての公立中学校の休日の部活動を１つ以上、地域クラブ活動にすることを目指して取組を進めている。

課題としては、地域の実情に応じた運営体制の構築や運営団体の確保、指導者の質や量の確保、活動場所の確保、参加費用負担の在り方、学校施設利用に関するルール等の整理が挙げられる。これらの課題に対して実証事業をとおし、多様なモデルケースの創出を図ることで、課題解決に向けた方策を増やし、県内に普及・周知していきたい。

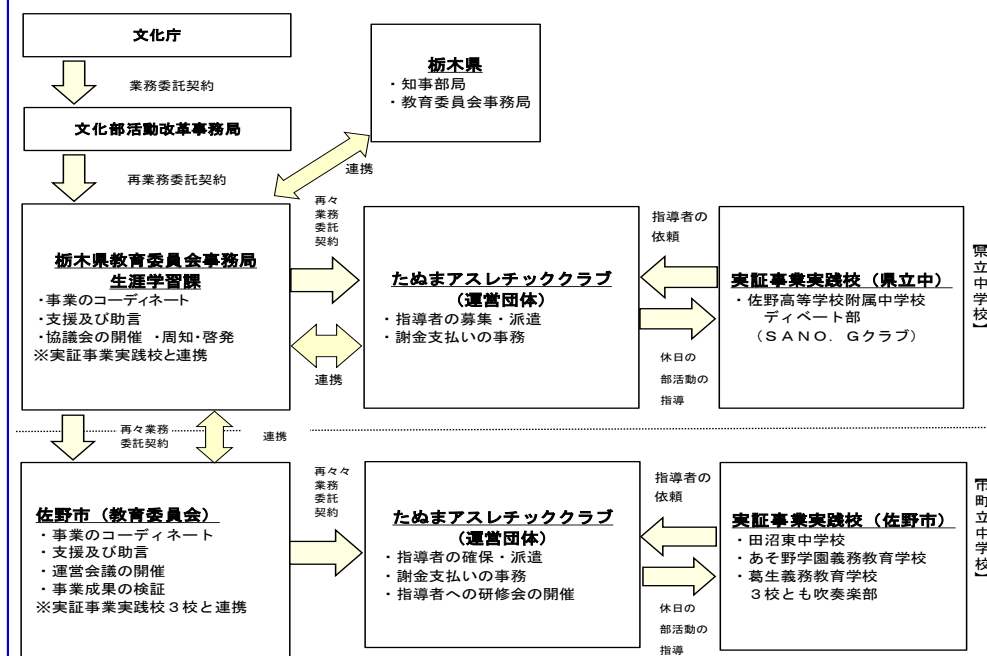
地域文化クラブ活動等の概要

中学校数	154 校	全生徒数	47,345 人
域内の 部活動数	353 部	実施した 地域クラブ数	4 クラブ
全体の 指導者数	4 人	全体の 運営スタッフ数	2 人
主な 運営団体	総合型地域スポーツクラブ 特定非営利活動法人 たぬまアスレチッククラブ		
主な種目	吹奏楽、ディベート		
平均的な 活動回数	2 回/月	年間平均 参加生徒実数	3 年：5 人/クラブ 2 年：6 人/クラブ 1 年：7 人/クラブ
参加会費	0 円/年	主な活動場所	各中学校

地域移行関連の取組、成果

- 市町担当者会議**を開催し、実証事業の成果や課題を共有するとともに、教育事務所や市町の担当者と各地域の現状について情報共有をすることができ、**担当者間での連携体制の構築**も図ることができた。
- 教育委員会の関係各課、関係知事部局、文化芸術団体等と連携し**、今後の地域クラブ活動の環境整備に向けた連携体制の構築に取り組むことができた。
- 「休日の地域クラブ活動に関するアンケート」**を実施し、地域クラブ活動の受益者負担額等について把握することができた。

運営体制図



自治体の課題、現状

- 平成2年に15,654人であった児童生徒数は、令和6年には7,743人（約50%減少）となっている。これからも減少傾向は続き、令和12年から令和42年にかけては、児童生徒数が約40%減少すると予測している。
- これまでの改革推進期間において、部活動地域移行に関わる対象校を計画的に増やしてきた。徐々に地域クラブ活動への認識も広まってきている。
- 地域移行を進める上での課題は、主に指導者の継続的・安定的な確保、学校施設の管理が挙げられる。そのため、指導者の掘り起こしや、施設管理における教職員の負担の軽減について同時に進めていく必要がある。

地域文化クラブ活動等の概要

中学校数	8 校	全生徒数	2,695 人
域内の部活動数	19 部	実施した地域クラブ数	3 クラブ
全体の指導者数	3 人	全体の運営スタッフ数	2 人
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ 特定非営利活動法人 たぬまアスレチッククラブ		
主な種目	吹奏楽		
平均的な活動回数	2 回/月	年間平均参加生徒実数	3 年：5 人/クラブ 2 年：6 人/クラブ 1 年：8 人/クラブ
参加会費	0 円/年	主な活動場所	田沼東中学校 外 2 校

地域移行関連の取組、成果

- 対象校が2校から3校へと1校増えたものの、月4回の休日のうち、月2回を地域クラブ活動、残り2回を部活動として、これまでの取組と同様に実施することができた。
- 部活動地域移行推進コーディネーターを教育委員会に配置したことにより、関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。
- 部活動地域移行推進協議会において、次期計画に関する内容を協議したことで、本市の目指す部活動地域移行の姿が見えてきた。
- クラウドファンディングを活用した基金の創設について合意が得られた。

運営体制図

